

うどんに感動！みんな楽しかったね

6月25日～26日と、こんぴら&うどんツアーへ行ってきました。今回の企画は、青年部から行きたいという声があり、実行委員会を立ち上げ、参加を呼びかけました。参加者は、初対面の人も多く、まずはバスの中で自己紹介からはじまりました。少しお互いの緊張もほぐれたところで、予定通り琴平へ到着しました。天気にも恵まれ、6月にもかかわらず30度を超えるという暑さの中、金刀比羅宮に登る前に、本場のつめたいうどんで腹ごしらえ。金刀比羅宮の入り口付近から、本堂までの階段は785段。少し息が切れましたが、さらに山頂近くにある奥社へと進みました。うっそうとした木々に包まれた静寂な参道は、中腹にあった本堂の賑わいとは違い、ゆっくりとした時間が流れていました。それぞれのペースで、奥社までの1,368段を登りきり、琴平町の景色を一望してきました。宿へ移り、日頃の疲れを温泉で癒し、バーベキューをしながら、お互いの職場のこと、休日の過ごし方、恋愛のこと…など、話題は尽きることなく、時間を忘れてにぎやかに交流しました。2日目は、映画「UDON」のロケ地にもなった三嶋製麺所へ行き、作りたてのうどんを堪能しました。地元の人曰く、「うどんは飲みもん」というほど、のど越しのいいうどんに感動しました。参加者からは、「ゆったりした日程で楽しく過ごすことができました」「食事がおいしくてよかったです。宿の周りの環境も良くて、虫を見れたのがうれしかったです」といった感想がありました。今後もアンケートを参考に、果物狩りやUSJなど近場で行ける日帰りツアーを考えて行きたいと思っています。最後に、日頃接点のない職場の人たちとの交流に少し不安はありましたが、実際過ごしてみても、みんな楽しく過ごしたいという気持ちは同じなんだと感じました。同期、同僚以外の職員との交流、学習ができるのは、組合だからできることではないでしょうか。今回のことを通じて、次につながるとりくみができたと思います。



こんぴら & うどんツアー 6月25～26日



健康福祉・土木現場・土建支部 合同交流パーティー



3支部は6月6日、当初予定を上回る40名もの青年が参加し、「交流パーティー」をイタリア料理店にて開催しました。今回は、子ども家庭Cや土木事務所など職種の垣根を越えて「新たな出会いの場がほしい」という青年組合員の要求に応えて実現されたものです。楽しいゲームやテーブルごとの会話が弾み、夜遅くまで大いに盛り上がり、「もっと話をしたかった。こんな企画なら参加したい」との感想も出されました。次回は秋ごろ開催予定です。乞うご期待！

新たな出会いの場 にぎやかに盛り上がったよ

6月26日(日) 府民要求連絡会、大阪市対策連絡会議主催で、大阪の防災のまちづくりを考える緊急学習会が開催され、200人の参加がありました。神戸大学大学院教授の塩崎賢明さんより「東日本大震災と被災・復興まちづくり」について、立命館大学教授の森浩之さんより「橋下知事がすすめる大阪都市のあり方」について、それぞれ講演がありました。



塩崎先生は、東日本大震災から大阪は何を学ぶのか、とつてもない災害が実際に必ず起こること、大阪は、東京に比べ、木造住宅密集地も多く耐震化も進んでいない

橋下さんで大丈夫？ 大阪の防災、安全・安心のまちづくり学習会

ため被害が大きくなることを想定して今から①減災対策の徹底実行②復興の備えが必要であること、阪神大震災の教訓なども踏まえながら、被災者の生活支援がまず第一であることを強調されました。

森先生は、橋下知事がすすめる大阪都市のあり方について、それぞれ講演がありました。

第56回 大阪母親大会に 延べ2800人が参加

輝け子どもの未来 憲法をいかにし、いのちをくらしを守るをスローガンにサンスクエア堺と大阪健康福祉短期大学を会場に2800人が参加。午前中は三会場に分かれ「平和と健康は幸福の必要条件」「普通の子どもに育てよう。学力だけでは生きる力はない」の記念講演と「TPPで日本はどうなる 私たちのくらしは？」の学習会はこの会場も熱気があふれていました。午後から17分科会に分かれ熱心に討論しました。

「平和と健康は幸福の必要条件」の記念講演を一部紹介します。今回の大震災で、K(京都)、Y(横浜)、O(大阪)、

で、石巻に住んでおられた講師日野秀逸さんのお母さんも行方不明になっておられ1週間後に避難所にいることがわかったそうです。震災前にとったアンケートで「地域で暮らしていく上で一番困っていることは」都市部でも田舎でも「隣近所とのつながりが疎くなった」が一番多く、病院が遠くなった、買い物不便、災害の危険が増している、消防・救急体制が弱くなっているがそれに続きます。災害がおきて一番頼りになるのは役場の職員と消防団であった。臨調と構造改革で公共サービス、福祉切捨て、金儲け中心の施策が続く中で社会的孤立と生活基盤の弱体化の同時進行が災害を大きくしている。都市型生活が進み保育所運動や生協運動が盛んになり住みよい民主的な街づくりの運動が進み革新自治体を作らなければならない。政府の責任をうたっている。財政的支援についても具体的な数値を示しながら安心して要求運動ができることを強調されました。

（沖繩）と日本の人口の5割が憲法を暮らしに生かすことをめざした革新自治体で生活。それを気に入らない勢力が総反撃を加えてきてつぶされてきた。今、平和的生存権（憲法前文、9条、25条、11条）、幸福追求権（13条）が必要になっている。地震と津波で全てをなくした被災者が、「金がないと生きられないのか」「何にすぎって生きていけばいいのか」と憲法25条にふれ、「お金がなくても生きるための諸方策を要求できる」ことがわかり頑張っておられる。国連の世界保健機関憲章には、「各国政府は自国民の健康に関して責任を有し、この責任は十分な保健的及び社会的措置をとることによってのみ果たすことができる」と政府の責任をうたっている。財政的支援についても具体的な数値を示しながら安心して要求運動ができることを強調されました。

北大阪地区評バスツアー



梅雨の合間の楽しいひととき

北大阪地区評は6月4日、恒例のバスツアーを開催し、キリンビール三田工場見学～こんだ薬師温泉～立杭陶芸体験など行きました。バス内では「都道府県ビンゴゲーム」で盛り上がり、昼食交流会で他の職場の人とも話が弾むなど梅雨の晴れ間に楽しい一日を過ごすことができました。